

『International Nurse Educators Conference : New Visions for Nursing Education 2007』 に参加して

後藤 姉奈¹, 江藤 由美²

はじめに

『International Nurse Educators Conference : New Visions for Nursing Education』が2007年11月14日から17日にかけて、香港（会場：香港理工大学）で開催された。本カンファレンスでは、4つの大きなテーマ「カリキュラムデザイン」「科学技術とコミュニケーションとの融合」「伝統的な健康促進アプローチ」「看護教育者に求められるリーダーシップ」がかかげられ、これらのテーマをもとに講演や研究発表が進められ、活気ある議論が行われた。アジア圏、アメリカ、カナダ、オーストラリア、英国などから約200名が参加した本カンファレンスに筆者らも参加し、有意義な学びを得ることができた。本稿ではその内容の一部について報告する。（表1）

看護師不足に対する看護教育カリキュラムの転換について～タイからの報告～

講演者はタイの Mahasarakham 大学看護学部長の Darunee Rujkorakarn 先生（以下ダルニー先生）で本カンファレンスの組織委員のひとりである。日本でも



香港島

看護教育に約2年間たずさわった経験があり、講演会場はタイと日本の参加者が多くを占め、ダルニー先生の講演内容を題材に、タイと日本における看護師不足やそれに関連する看護教育上の問題点などがオープンな雰囲気の中で話し合われた。

ダルニー先生の講演は次のような内容であった。『タイにおける看護師の有資格者は118,087人、人口500人対し看護師1人の需要を満たすには130,237人の看護師が必要とされており、差し引きすると11,913人の看護師不足が算出される。どうすれば短期間で新卒看護師数を増やすことができるかが検討された。そこで他学科でも特に公衆衛生や科学技術の分野の学士課程を卒業した者や地域で健康保健業務に従事している幹部をターゲットにし、新規学生として看護学の専門的な教育を受けるのみで看護師の受験資格を得られるようなシステムを作るという案が出された。このような対象者をターゲットにする利点として、教育期間が短くてすむこと、幅広い経験をもっていること等が挙げられる。カリキュラム構成は、フレキシブルな教授法や学習法が求められることになる。（図1）』

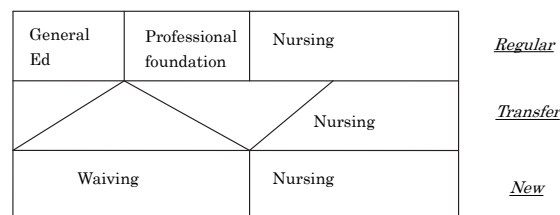


図1 ダルニー先生 カリキュラム概念図
（講演スライドより）

日本の参加者は日本における看護師不足は新卒看護師の離職が多く、その理由として高度化複雑化を増す臨床現場において看護実践能力の不足に悩み挫折するケースが多いことや現代の若者の精神的な脆弱性が説明された。

1. 三重大学医学部看護学科
2. 三重大学医学部附属病院

表1. 『International Nurse Educators Conference : New Visions for Nursing Education 2007』 プログラム

	2007/11/14	2007/11/15	2007/11/16
	Day 1	Day 2	Day 3
0800-0900		Registration	Registration
0900-1030		Plenary Keynote Address: Information Technology and Communication in Nursing Education <i>Professor Thomas Wong, JP Dean, Faculty of Health and Social Sciences, The Hong Kong Polytechnic University</i>	Plenary Keynote Address: The Professorial Role as Leader in 21st century <i>Professor Roger Watson School of Nursing and Midwifery, The University of Sheffield and Editor-in-chief, Journal of Clinical Nursing</i>
1030-1100		Poster presentation, networking	Poster presentation, networking
1100-1130		Concurrent Session(2)	Concurrent Session(6)
1130-1200			
1200-1215	Registration		
1215-1315		Concurrent Session(3)	Concurrent Session(7)
1315-1330	Welcome Address	Lunch	Closing Ceremony
1330-1345	Lion Dance		
1345-1430	Plenary Keynote Address: Embracing New Pedagogies Research-based Reform and Innovation in Nursing Education <i>Professor Pamela Ironside School of Nursing , Indiana University</i>		
1430-1500	Poster presentation, networking	Concurrent Session(4)	
1500-1530	Sponsor Demonstration: Campus- ride Lecture Capture for High Education		
1530-1630	Concurrent Session(1)	Concurrent Session(5)	
1630-1700	Pediatric Simulator Demonstration: Advanced and powerful simulator for teaching and learning in nursing	Poster presentation, networking, visit to exhibition booths	
1700-1730		Open Forum	
1730-1800			
1900-2200	Conference Dinner		

ダルニー先生の講演内容に加えて、タイにおける看護教育の概要や日本との違いについて説明する。タイでは1971年に初めて看護学部が設立された。その後、大学化が進み、現在看護教育はすべて学士課程教育である。アメリカにおける看護教育を基盤とし、カリキュラムは4つの開発段階を経てきている（Community-Oriented approach, Comprehensive curriculum-Blend up Subjects, Theory-based curriculum-Based on single theory, Holistic curriculum）。講義はすべて英語で行われる。大学はいわゆる附属病院のような地域基幹病院と連携しており、実習を通じて臨床能力向上にも力を入れて取り組んでおり、高レベルな基礎教育が行わ



ダルニー先生の講演の様子

れているという印象を受ける。看護師の資格は、学士課程教育ののち試験（看護師職能団体のひとつが国の委託を受けて看護師資格試験などを行う）を受けて取得する。地域で住民の健康管理を担う保健師（PHN）の資格は設定されておらず、看護師がその役割を担っている。看護基礎教育従事者は看護学修士を有しており、看護教育に特化した専門教育を受けていることがふさわしいとされ、教授は学部生の教育にかかわることはほとんどなく、看護教員や大学院生の教育の比重が大きい。

筆者らはダルニー先生の日本での数少ない教え子である。久しぶりにダルニー先生の講演を聞き、現状を正確に把握・分析し、論理的に問題解決を図ろうとする姿勢に感心した。日本でも医療安全の確保や在宅医療の推進など、患者本位の質の高い看護ケアを提供するためには、時代の要請に応えられる看護職員を質・量ともに確保することが求められている。日本では平成18年度診療報酬改定により学生の青田買いが起っており、看護師確保における地域格差や病院間格差の問題についてあらためて考える機会となった。

Information Technology and Communication in Nursing Education

～Wong Kwok-Sing, Thomas 先生の講演～

Wong Kwok-Sing, Thomas 先生（以下ウォン先生）は香港理工大学健康社会科学部部長を務めており、香港の看護界においては著名な先生である。ウォン先生は講演の中で、時折香港人の気質にふれ、ユーモアを交えながら講演された。

ウォン先生の講演は次のような内容であった。『香港においても日本と同様、高齢化が進むと予測されていることや疾病構造の変化が起っており、21世紀は挑戦と変革の時代である。看護は他の領域（科学技術、政治など）と協力しながら、それぞれの枠を超えて発



ウォン先生の講演の様子

展していかなくてはならない。特に科学技術の進歩は著しいものがあり、その有用性をもっと活用すべきである（図2）。老年人口の増加が見込まれるなかでは、地域社会を拠点とした看護の力がさらに必要とされる。具体的に科学技術の力と看護の力を融合したシステムとしては、テレヘルスサービスシステムの構築や kiosk（地域で健康保健相談や簡単な健診が手軽に受けられる簡易施設）の設置が挙げられる。（kioskについては具体的な施設内容について図を用いて説明された）』

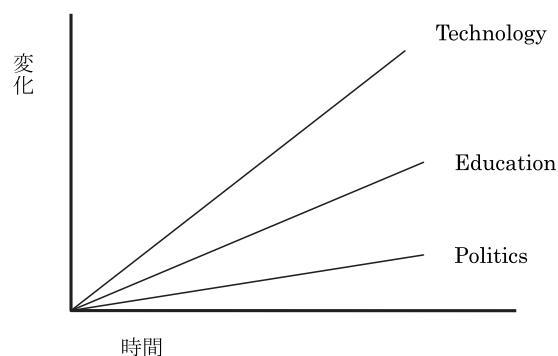


図2 ウォン先生 変革のスピード

人々は居住している地域や年齢、所得にかかわらず、迅速に公正で適切な医療や看護を受けたいというニーズを持っている。そのニーズは今後、地域社会を中心にさらに期待が高まると考えられる。しかしながら日本においては遠隔医療を含めたテレヘルスサービスシステムの便益性については認識できても実用化や一般化は、まだまだ先の話という感が否めない。香港理工大学ではウォン先生というリーダーのもと、教育理念においても 'Technology' というキーワードが使われている（図3）。進歩する科学技術や情報技術と看護との融合は人々の健康を増進させ、ひいては看護の発展につながるのである。看護と他の学際的な領域との融

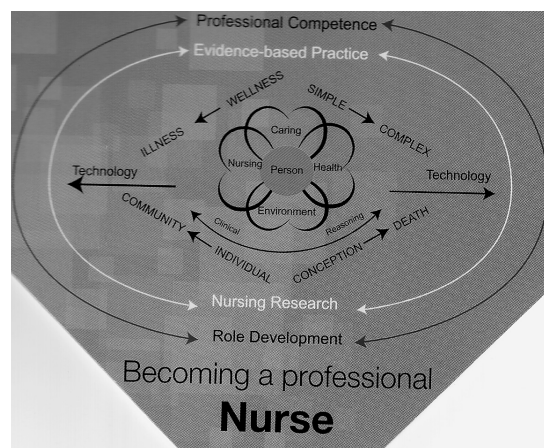


図3 香港理工大学看護学科 教育概念図

合のなかで看護がリーダーシップをとるためにも、看護基礎教育においてはその重要性をどのように伝え学ぶ機会を提供していくかが課題であると考えた機会となった。

おわりに

香港の街では行き交う人の歩くスピードの早さやタクシー運転手の少々手荒な運転に驚かされた。香港人とはとにかくパワフルなのである。それは積極的に自国の状況や自分の意見を発表していたカンファレンスに参加したメンバーにも共通していた。今回の多様な講演を聞いて感じたことや人との出会いから、自分もその学びを‘行動’に移せるよう努力したい。



会場の様子



ポスターセッション